

理科 第4学年 巻頭 検討会の想定問答

指摘 1：本時で何を見取るのか。

返し：「今年の理科では、疑問をどんな手順で確かめていこうか」について、比較した資料や記録から根拠を選び、事実と自分の考えを区別して説明している。結論の暗唱ではなく、根拠の箇所を指し示せるかを見取る。本時は単で集めた記録を整理する時間として置く。

指摘 2：活動だけで終わらないか。

返し：教師が用意した季節の生物の様子や天気と気温の短い記録例を読み、事実と予想を分ける。既習や生活経験に基づく予想に着目して調べる問いを選び、安全に確かめる準備を話す。活動後に中心の問いへ戻り、事実と説明を線でつなぐ。第3の2(1)で求める理解と表現をそこで確かめる。

指摘 3：予想と違う結果が出た場合はどうするか。

返し：予想を結果の欄へ書く場合、実際に見たこととこれから確かめることを色や囲みで分ける。未習の結論を答えさせない。予想に合わせて結果を書き換えず、条件や資料の読み方を再確認する。第3の2(1)に関わる考えを見直す学習として扱う。

指摘 4：説明や記述が難しい子にはどうするか。

返し：比較する記録を並べ、対象・条件・時期を指差して話せるようにする。今年の記録の取り方を説明する活動では、教師が比較の視点を示してから児童の言葉で説明を聞く。代筆や図の使用は認めるが、考えそのものを教師が決めない。

指摘 5：安全や個人への配慮は何か。

返し：教室や校庭の安全な観察範囲、器具の扱いと中止時の連絡を確認する。実施前の点検ができない活動は共通の記録資料に替え、第3の2(1)の問いを考える機会を確保する。

指摘 6：資料やICTはどのように使うか。

返し：教師が用意した季節の生物の様子や天気と気温の短い記録例を読み、事実と予想を分ける。既習や生活経験に基づく予想に着目して調べる問いを選び、安全に確かめる準備を話す。画面は拡大や並列表示に使い、端末がなくても印刷した同じ記録で比較できるようにする。ICTの操作の速さは評価しない。

指摘 7：時数の根拠と削る場合の考え方は。

返し：全1時間は東京書籍の年間指導計画による。各次の配分は本案の提案である。削る場合も「今年の理科では、疑問をどんな手順で確かめていこうか」を追究する記録と説明の時間を残し、同じ資料を読む重複や清書の方法を見直す。安全確認や実物を確かめる過程は省かない。

指摘 8：振り返りと次の指導をどうつなぐか。

返し：「今年の理科では、疑問をどんな手順で確かめていこうか」について最初の考え、根拠にした記録、まだ残る疑問を読み比べる。今年の記録の取り方を説明する活動で根拠が不足した児童には、その記録を次時の導入に戻して確認する。態度は感想の長さではなく、調べ方や説明を見直す行動を継続して見る。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

